



会 議：国際海事機関（IMO）第5回船舶設計・建造小委員会（SDC 5）

開催場所：国際海事機関（IMO）、英国、ロンドン

会議期間：2018年1月22日～26日

参加国：国および地域：73、政府間機構：2、国際機関：28

海技研からの出席者：

太田 進：国際連携センター長

黒田 貴子：流体性能評価系耐航性能研究グループ主任研究員

概要：船舶設計・建造小委員会は、

- 係船作業の安全対策のための海上人命安全条約（SOLAS条約）の改正案をまとめた。
- 浸水事故時に復原性計算を行う機器の現存大型外航旅客船への搭載に関する SOLAS 条約改正案をまとめた。
- 沖合の洋上施設に作業人員を輸送する船舶の安全要件を規定する SOLAS 条約附属書新章の草案等の策定作業を進めた。

#### 主な貢献

太田は、SOLAS 条約第 II-1 章第 3-8 規則（曳航及び係船設備）及び関連ガイダンス（MSC.1/Circ.1175）の改正並びに安全な係船作業のための新しいガイドライン（議題 10）に係る審議を担当した。前回会合で設置されデンマーク代表とともにコーディネータを務めた通信グループ（CG）の報告を行うとともに、今次会合ではこの議題に係る作業部会（WG）の議長を務めた。また、今次会合で設置された CG のコーディネータを引き受けた。

黒田は、第二世代非損傷時復原性基準の最終化（議題 6）に係る審議を担当し、この議題に係る非公式会合にも参画し、審議に貢献した。



海上技術安全研究所からの出席者



## 主な審議結果

当所職員が担当した議題の主な審議結果は以下の通りである。他の事項及び審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

### 1 SOLAS 条約第 II-1 章第 3-8 規則及び関連ガイダンスの改正並びに安全な係船作業のための新しいガイドライン（議題 10）

大型船舶を係船するロープが破断して死傷者が出る事故が国内外で多数発生していることを受け、こうした事故を防止するため IMO は、SOLAS 条約の改正に加え、関連する指針の改正及び新たな指針の策定について審議している。

SDC 小委員会は、前回会合において設置した CG の報告を受け、今次会合では WG を設置して、SOLAS 条約第 II-1 章第 3-8 規則（曳航及び係船設備）の改正案をまとめるとともに、「船上の曳航設備及び係留設備のガイダンス」（MSC.1/Circ.1175）の改正案及び「安全な係船のための適切な係船設備及び装置の選定と配置の設計に関するガイドライン」案並びに「索を含む係船装置の点検と整備のためのガイドライン」案の策定を進めた。また、これらガイダンス／ガイドラインの策定を CG において進めることに合意した。

### 2 第二世代非損傷時復原性基準の最終化（議題 6）

第二世代非損傷時復原性については、「デッドシップ状態」、「パラメトリック横揺れ」、「ブローチング」、「復原力喪失」及び「過大加速度」の五つの復原性事故モードについて三段階で評価する基準案を審議している。これまでに第二世代非損傷時復原性基準の最終化に向けて、すべてのモードに対して第一、第二段階簡易基準案と直接復原性評価（第三段階基準）の試算を実施し、技術的検討を続けてきた。

今次会合において小委員会は、第一、第二段階簡易基準、直接復原性評価をまとめて最終化するための CG への付託事項を作成した。今後、CG（日本がコーディネータ）において、同付託事項に沿って直接復原性評価および運航制限・運航ガイダンスの暫定ガイドラインの作成と第一、第二段階簡易基準の最終化に向けた検討を行うこととなった。この検討および SDC 6（2019 年開催予定）を経て、SDC 7（2020 年開催予定）での第二世代非損傷時復原性基準の最終化および SDC 8（2021 年開催予定）での説明文書の最終化を目指すこととなった。

### 3 次回会合

次回の船舶設計・建造小委員会（SDC 6）は、2019 年 2 月 4 日から 8 日まで、ロンドンの IMO 本部で開催される予定である。